

式辞（平成23年度）

平成23年度卒業式にあたり、お祝の言葉を申し述べます。卒業生の皆さん、おめでとうございます。皆さんが入学以来、本学で学び、また体験したことを思い出してみれば、それは簡単には言い尽くせないほど多様で、中身の充実したものであったものと思います。その結果としてきょうの卒業式があるわけで、皆さんの喜びはいかばかりかとご推察いたします。心からお喜び申し上げる次第です。



学長より学位記授与

また、本日ご列席いただいているご家族の皆様方にもお喜びを申し上げます。本学も限られた条件のなかで最善を尽くしたと信じておりますが、なによりも、学生諸君が、持てる力を振り絞って努力したのであります。このような学生を本学にお送りくださったことに感謝し、また卒業までの日々を支えてくださったことに、厚くお礼申し上げます。

昨年の卒業式を東日本大震災のために予定通り行うことができず、五月末に延期して行ったことが思い出されます。予定したことを予定通り行えることがいかに幸福か、ということを実感しているところです。

どんなに長い時間でも、過ぎてしまえば、「あつというまだった」という感慨を持つものですが、東日本大震災以後に過ぎてきた時間は、すべての日本人にとって、実に長く辛いものとして思い出されます。直接の被害にあわなかった人々にとってもそうですから、ましてなんらかの被害にあわれた方々の苦しみを思うと、言葉を失います。せめて、すべての人が、この痛みを自分の痛みとして感じているかぎり、まだ希望の灯は消えていないと考えるほかありません。

本学もこの1年間は大震災とそれに伴う原発事故への対応に追われました。国や都から求められたという側面は否定できないものの、義務や困難をできるかぎりかわしてしまおうというのではなく、むしろまともにこれにぶつかってゆこうという姿勢を本学は貫きました。それは本学創設以来の理念に従ったものと言うほかありませんが、そのために学生諸君にも協力を求めざるをえず、ときには苦勞ないしは苦痛を強いることがあったかもしれません。そのことについてはお詫び申し上げます。しかしながら、逃げるのではない、まともにぶつかるのだという本学の姿勢に共感を持っていただけなものと思っています。そして、それを皆さんのこれからの生き方の基本に置いていただきたいと思えます。

現在の国際情勢や国内情勢が大きく揺れ動いていることは誰も認めるところです。しかし、考えてみれば、今まで、それらが安定していた時期など一度もありませんでした。不安定あるいは混乱は人の世の常だと断言することができます。しかしながら、戦時下を除けば、現在のように、政治も経済も崩壊の危機に瀕したことはかつてなかったのではないかと思います。この時代に生きる私たち、とりわけ若い世代の人たちは、何を心のよりどころとして生きてゆけばよいのか、と考えるに、それは、ひとこと言えば、人間という存在への信頼というものであろうかと思われれます。私たちが立つ時、たとえ世界のどこにしようとも、私たちの頭はまっすぐに天を指し、私たちの足はまっすぐに地球の中心を指しています。人間が直立歩行を始めた時、人間は人間になったのです。私たちは人間としての誇りを失ってはいけないのです。地球の中心と宇宙とをまっすぐに指し示す屹立した精神を保たなければなりません。不正を許さず、卑怯・卑劣を憎み、弱者への思いやりを忘れず、地球と宇宙への愛を保つこと、それらのことが精神の直立ということであればなりません。皆さんが、これからどんな苦境にあらうとも、人間であること、そして自分であることの誇りを持って、毅然として生きてゆかれることを切望します。



晴着で賑わう共立講堂前

本学は、皆さんがこれから社会で活躍され、社会の発展に寄与されることを願い、また、信じています。そのためにこそ、すべての大学はあるのです。しかしながら、皆さんがいかに有能で意欲的であらうとも、皆さんの活躍の場がいつも用意されているとは限りません。ある時期には、皆さんは、自分の存在が社会から求められていないかのような錯覚に陥り、孤独や自己不信に苦しむことがあるかもしれません。しかし、それは、次の活動のための、いわば天が与えてくれた充電期間なのです。イギリス・ロマン派の詩人ウィリアム・ブレイクは、「虎」と題する有名な詩で、夜の森の中で行動

の時期を窺って身を潜める虎を、たとえようもなく美しいものとして歌っています。恐ろしいまでに均整のとれた体、炎と燃える眼、溶鉱炉で溶かされ鉄床の上で鍛えられたかのような脳髓、それらのものが神によって作られたのだとしています。行動に備えてしばし身を休めることを、ブレイクは、むしろ激しいイメージで捉えているのです。もし皆さんの生涯にそのような時期が訪れたなら、それを積極的・肯定的にとらえて、人生に生かしていただきたいと思います。

最後に、ご列席のご家族の方々にお祝いと御礼を申し上げ、卒業生の皆さんの今後のご健康とご活躍を祈念し、式辞といたします。

平成24年3月15日

共立女子大学
共立女子短期大学
学長 入江和生